

発注動向調査結果

-2012.5-

- 調査時点 平成24年3月調査（平成24年3月末時点）
- 対象企業 150社
- 調査時期 4半期毎（3、6、9、12月末時点）
- 回答企業 65社（回答率：43.3%）

DI (Diffusion Index)とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値です。

<業種内訳>

プラスチック	11社
鉄鋼・非鉄	9社
金属製品	6社
一般機械器具	12社
電気機器	11社
輸送用機器	8社
精密機器	5社
縫製	3社
計	65社

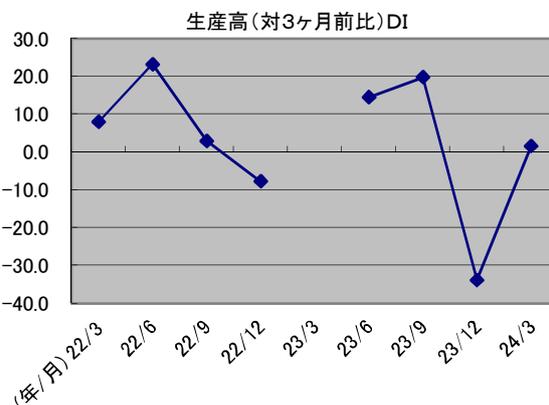
生産高（対3ヶ月前比）DI

タイの洪水被害から復旧し、一部で持ち直しの動き

【概況】

生産高（対3ヶ月前比）DIは1.5となり、前回の▲33.8から35.3ポイント増と大幅に改善した。23/12月期はタイ洪水や欧州債務問題の影響により減少したが、洪水被害からは復旧し、北米や新興国向けの自動車、新興国向け鉱山機械が好調な建設機械の伸びが改善要因の一つと考えられる。

一方で、デジタル家電をはじめとした電機業界の生産低迷がマイナス要因となり、トータルとしてDI値は1.5に留まった。



	(年/月)	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3
生産高(対3ヶ月前比)DI		7.9	23.2	2.9	▲ 7.8	(未調査)	14.5	19.7	▲ 33.8	1.5

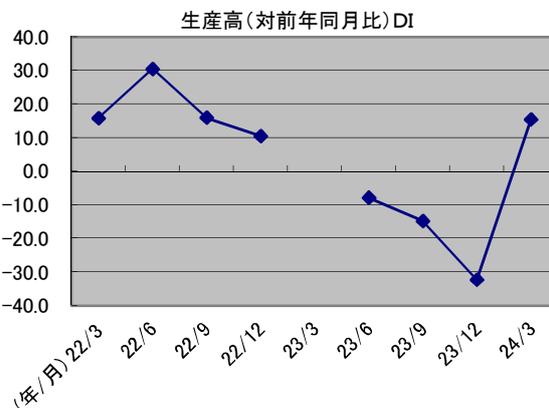
生産高（対前年同月比）DI

前年同月比で大幅改善の動き

【概況】

生産高（対前年同月比）DIは15.4となり、前回の▲32.3から47.7ポイント増と大幅に改善した。

昨年3月は、震災による地震、津波、原発事故、サプライチェーンの寸断等の要因から生産活動も大幅に低下したが（本調査は未調査）、震災から1年が経過し、輸送用機器を牽引役に生産活動が回復してきたことがうかがえる。



	(年/月)	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3
生産高(対前年同月比)DI		15.8	30.4	15.9	10.4	(未調査)	▲ 7.9	▲ 14.8	▲ 32.3	15.4

3ヶ月先見通しDI

マイナス幅が縮小するも、先行きは不透明な状況

【概況】

3ヶ月先見通しDIは▲9.2となり、前回の▲21.5から12.3ポイント増と改善となった。前回からは改善となったものの、DI値は3期連続でマイナスであり、震災に伴う国内の復興需要も、期待するほどの需要増には結びついていない。FA機器、スマートフォン関連の通信・電子機器等に持ち直しの動きがあるものの、全体としては先行きは楽観視できない状況である。



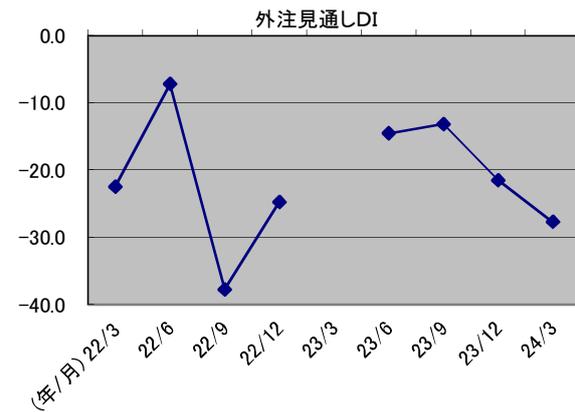
	(年/月) 22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3
3ヶ月先見通しDI	▲ 22.4	7.2	▲ 39.1	▲ 22.1	(未調査)	10.5	▲ 11.5	▲ 21.5	▲ 9.2

外注見通しDI

2期連続で悪化し、国内の外注取引は厳しい見通し

【概況】

外注見通しDIは▲27.7となり、前回の▲21.5から6.2ポイント減の悪化となった。生産活動は改善しているものの、現状の経済環境の中で多くの大手発注企業が生産の海外シフトを加速しており、国内の外注取引環境はこの先も厳しい状況が続くものと予想される。



	(年/月) 22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3
外注見通しDI	▲ 22.4	▲ 7.2	▲ 37.7	▲ 24.7	(未調査)	▲ 14.5	▲ 13.1	▲ 21.5	▲ 27.7